

山脇花菖蒲促成栽培ポイント 10

鳥取県琴浦町 山脇 信正

1 はじめに

この栽培法は、「花菖蒲が長日性植物であり北方系の植物であることに着目して、照度と温度を調整し室内に春の陽気をつくり真冬に花菖蒲を觀賞すること」を目指している。

先に発刊した著書「花菖蒲に魅せられて～人生二度生きる」以後の研究で新たに明らかになったことを加えて2001年から2011年までの10年間の研究成果を「促成栽培ポイント10」としてまとめた。会員の皆さんに広く情報を提供し、互に切磋琢磨してより完成された栽培法になることを願っている。

2 栽培ポイント 10

(1) ポイント 1

鉢への本植えは、2月下旬頃から3月下旬までにする。※9月の葉刈りまでに株をより充実させるために早く本植える。

(2) ポイント 2

植え付ける苗は、新芽の出始めたポット苗の芽を使用する。※2芽ずつに株分けして、1鉢に3株植え付ける。

(3) ポイント 3

肥料は、植え付け後1ヶ月後から4回与える。※3月1日に植え付けた場合、4月1日、5月1日、6月1日、7月1日の4回。

(4) ポイント 4

肥料は、チッ素分が少なくリン酸分の多い肥料を与える。※冬季は日照が不足しがちで葉がひ弱くなる。チッ素分を少なくして葉を堅く育てる。

(5) ポイント 5

花芽の分化は、9月上旬～中頃頃で8月末頃までは花芽は分化していない。

※過去5年間の実験の結果、9月に葉刈り

した鉢はすべて開花したが8月中に葉刈りをした鉢は開花しなかった。花芽の分化時期は9月頃と考えられる。

(6) ポイント 6

葉刈りは必要条件。葉刈り後、鉢植えは約110日盆養作りは約125日で開花する。※例えば、クリスマス頃から正月にかけて開花させるには、逆算して110日前の9月の中旬に葉刈りをすればよい。品種によって多少の差がある。

(7) ポイント 7

葉刈りの手順（元日に開花させるため110日前の9月11日に葉刈りする場合）
※葉刈りの前にあらかじめ殺菌剤と殺虫剤で消毒をしてから葉刈りをする。

※葉刈り後の鉢は、室内に取り入れる10月1日までは日当たりの良い戸外に置く。

(8) ポイント 8

鉢植えを室内に取り入れ後の栽培管理(10月1日に室内に取り入れた場合)

※電照と加温する時間：日没から午後9時頃までと午前5時頃～夜明けまで。

※室内の照度：300ルクス

※室内の温度：15°C～22°C

※鉢受けの容器の水は、常時1～2cm位張っておく。根腐れの心配はない。

※午後9時～午前5時頃までは無照明、無加温。花菖蒲は寒さに極めて強い。

※日中の室温は無加温でもよいが、窓越しの日照は必要である。

(9) ポイント 9

休眠期（鳥取地方では12月上旬頃）に入った鉢は、葉刈りした鉢と同じ条件で室内に取り入れて電照と加温をすれば約110日後の3月中下旬頃に開花する。

(10) ポイント 10

促成栽培に適した主な品種（早咲き種で草丈の低い品種を選ぶ）

【促成栽培に適した品種】

○清水弘氏作出品種：棚田の藤桜、棚田の春、棚田の桜、棚田の八重桜、棚田の夜、火影、氷河の鳥、若桜、春の灯、春の園、霞千鳥、紫頭巾、新選組、乙女峠、篤姫、杣人、清雅、藤の精、天昇、雷丘、荒神、鏡花、影法師、竹灯り、松虫、鈴虫、黒部、美園、御所の入橋、月の行進、姫野、湖泉、潮の香、雪割桜、初桜、花仙桜、満開桜、天神山、黒髪乱れ、童画の桜、春誉

○光田義男氏作出品種：京舞、淀君、千姫、茶々、雛祭、琴桜、迎春花、桜吹雪、右近の桜

○加茂花菖蒲園作出：初夢、淡雪桜、紅桜、深海の星、晴々、北洋、小魁、初島、月の都

○山脇信正作出：琴浦桜、琴浦の春、琴浦の誉、琴浦の光、琴浦の郷、琴浦千鳥、琴浦の漣、琴浦小紫、琴浦千代



(10月1日 室内に取り入れて電照開始)



(10月8日 葉刈り後 28日)

3 写真でたどる生育記録



(9月11日 葉刈り直前の鉢の状態)



(11月19日葉刈り後 73日)



(9月11日 葉刈り直後の鉢の状態)



(12月7日葉刈り後 93日)

※清水弘氏作出「棚田の夜」、「棚田の藤桜」、
「火影」、「若桜」、「氷河の鳥」、「清雅」、「若桜」、
「天昇」「春の灯」、「春誉」10品種の花梗を確認する。



(12月11日葉刈り後97日)

※「棚田の夜」のつぼみの先が色付く



(12月14日葉刈り後100日『棚田の夜』開花)

※過去4年間の開花日—2008年-12月24日、
2009年—12月25日、2010年-12月26日、2011
年-12月14日 ※4年連続「棚田の夜」が一番早く開花。

4 .室内に取り入れ後の育て方

- (1) 日中と夜間(日没から午後9時頃までの室温は15°C~22°Cくらいに保つ。
- (2) 日中は窓越しの日差しが必要。窓越しの日差しがとれない場合は電照で補う。
- (3) 日没から午後9時頃までと目覚めから夜明けまでは、電照(300ルクス)と加温(15°C~22°C位)をする。午後9時以降目覚めまでは、無加温・無照明でよい。(花菖蒲は北方系の植物で寒さに極めて強く0°C~-2°C位までは枯れない。)

(4) 受け皿の水は切らさない。(常時水が溜まっているようにする。鉢底から1cm~2cm位に保つ。根腐れの心配はない。)

(5) 折れ葉や枯葉はハサミで摘み取る。(凛とした剣状の葉姿は花菖蒲の魅力の1つ。)

(6) 花は咲いてから4日~5日で萎む。花殻を摘み取って次の2番花の開花を待つ。

5日~6日後に同じ花が開花する。(1つのつぼみから同じ花が2度咲くのは、花菖蒲の最大の魅力。)

5 おわりに

花菖蒲を季節の花として楽しむことはそれなりに素晴らしいことである。しかし、この花が年中身近で楽しめたら……、と愛好家なら誰も思う願いであろう。

過去にも先輩の努力の跡が残されている。会報第5号(昭和35年)で、押田成男氏が2月中下旬頃に株を掘り上げ冷蔵保存し、休眠期を延ばして8月~10月頃に開花させる抑制栽培法を紹介している。

私の栽培法は、照度と温度を調整して休眠から目覚めさせる促成栽培法で、春先に株分けをして植え込み、9月の葉刈りまでにしっかりした株に育て、10月頃から屋内で育成し身近で生育を楽しみながら真冬に開花させて観賞することを目指している。この「栽培ポイント10」が役立つものと確信している。

2009年1月、東京都葛飾区「郷土と天文の博物館」の企画展「花の宴・堀切の夢」で日本花菖蒲栽培史上初めてとなる「真冬の花菖蒲展」(日本花菖蒲協会後援)が開催されてから、この促成栽培に取り組んでおられる方が全国の花菖蒲愛好家の中に増えていることを嬉しく思う。

今後も自らの研鑽に努め新しい栽培情報を発信していきたい。近い将来、真冬に家々の窓辺に花菖蒲が咲き誇る日を夢見ている。